◎伝統と歴史を感じる「鹿沼秋まつり」見学：令和 8 年 10 月 10 日・・・散策人：小堤 兵吾 投稿

●10月10日、栃木県鹿沼市で開催された「鹿沼秋まつり」を見学してきました。今回のお目当ては、豪華絢爛な彫刻屋台の神社への繰り込み行事です。

　鹿沼今宮神社の屋台行事は、国の重要無形民俗文化財に指定されており、全国の祭りとともにユネスコ無形文化遺産にも登録されています。今年は登録10周年という節目の年にあたります。

●当日は、町を挙げて多くの屋台が繰り出し、神社へと集まる様子は圧巻でした。精巧な彫刻が施された屋台の豪華さと、祭りを盛り上げる人々の熱気に、伝統行事の素晴らしさを改めて感じました。

●また、栃木県に来て初めて知ったことがあります。それは、会計事務所のコンピューター計算センターとして発展した「TKC」が栃木県で生まれた企業であり、TKC カスタマーサポートサービス株式会社であるということです。身近な企業の意外な一面を知り、興味深く感じました。

●初めて見学した鹿沼秋まつりでしたが、長い歴史の中で受け継がれてきた伝統と、それを守り続ける地域の皆さんの熱意に触れることができ、心に残る一日となりました。






●鹿沼の屋台は、全面が「豪壮な彫刻」と「緻密な彫刻」で飾られている点や骨組みの部分に筋交い等を有しない構造に特徴があり、二百年の時の流れを経て、現在に至っている彫刻屋台が数多く存在しています。
この地域は、例幣使街道と日光西街道の宿場町であったことから、日光山の彫刻師が冬、仕事が無く下山し、あるいは、日光の帰り道に宿場や村の依頼により造ったものであるという伝承があります。





●その鹿沼今宮神社祭の屋台行事は、今宮神社の例祭に行われます。鹿沼市は栃木県の中西部にあって、東は宇都宮市、北は日光市と接し、近世以来日光例幣使街道の宿場町として栄えるとともに、周辺で栽培される麻の集散地として、また木工・建具生産を中心とする町として栄えてきました。






●また、近世後期に造られた屋台の中には、日光五重塔彫物方棟梁後藤正秀や神山政五郎、後藤音吉などの彫刻師の名前が残っています。　※（おまけの画像ですが、ハーレーダビッドソンのツーリングバイク）小堤 作成